

2024 年 5 月 21 日  
フィード・ワン株式会社

## 2024 年 3 月期 通期決算および中期経営計画説明会 Q&A

Q1 : 事業環境のところで説明があった輸入原料の価格動向について、とうもろこしの環境は良い一方、魚粉はエルニーニョ現象の影響で価格が上がっているということだが、今年は、エルニーニョからラニーニャに気象条件が移っていくということで、事業の前提となるこの気象による原材料への影響等、どう先行きを見通しているのか。

A1 : とうもろこしについては今のところアメリカも順調であり、ブラジルも洪水はあったが全体に収量に影響を与えるほどではないと考えている。シカゴ相場、それからアメリカの農務省の報告についてもそんなに大きなサプライズがなく、価格においても多少の上げ下げはあるにしろ、このままの水準で推移していくものと想定している。

魚粉については、直近で漁獲量がやや回復傾向にあること、また中国の景気減速による買い控えの影響で在庫が多いということはあるが、これは一時的なものではないかと考えている。仮に今、魚粉価格の高騰が止まったとしても、現状のファンダメンタルズで大きく下げる状況がない以上、魚粉に依存しないことが最終的に飼料価格の安定につながるのではないかと考えている

Q2 : キャッシュアロケーションにおいて、キャッシュ・インが 600 億円以上というのは 6 年間における数字なのか、それとも 9 年間なのか。また、キャッシュ・アウトのタイムスケジュールはあるか。

A2 : 6 年間におけるキャッシュ・インを想定している。キャッシュ・アウトのタイムスケジュールは、現在の想定では、1st の終わりから 2nd 始まりを想定している。

Q3 : BS のマネジメントにおいて、DE レシオの比率における目標はあるか。また保有資産の最適化における施策はなにか。

A3 : DE レシオについては、財務規律ということで最高でも 1 倍、基本的には 0.6 倍～0.7 倍を目標値として想定している。政策保有株の最適化については、毎年続けてい

る5億円ほど（時価ベース）の縮減のペースアップを図っていくこと、また遊休資産の売却もしっかり進めていきたいと考えている。

Q4： 配当において25%以上が目標とあるが、今期の業績予想では25%を少し下回っており、あともう少しの金額を出すだけだったのではないかと感じるが、ここが23%ほどになってしまった理由はなにか。

A4： 今期の業績予想では配当性向23%ほどになっているが、この辺りは業績の確からしさを見極めたうえで、掲げている25%以上という目標に対してしっかりと対応していきたいと考えている。

Q5： ガバナンスにおいて三井物産株式会社が株主である状況下、近年各商社が資本効率性にこだわってきていると感じているが、その中で親会社である三井物産株式会社から資本関係の見直し等について対話を行うことがあるか。

A5： 三井物産株式会社との関係については、所謂子会社ではなく持分法適用会社であること、また当社自身も上場企業であることから、独立したボードの中で運営を行っている。その中で、株主として配当性向等について対話を行うことはあるが、あくまでも一株主としての意見と認識している。

Q6： 辻社外取締役にお聞きしたいが、御社以外に複数の他社の取締役役に就任されているが、社外取締役の立場から見て、御社の良い点と課題に感じる点はあるか。

A6： 私の過去の経験から、企業経営において最も重要なことはガバナンスだと考えており、外形的な話ではなく実効性のあるガバナンスで質の向上に貢献したいという想いで、日々社外取締役として活動している。そのためには、社長を含めた執行部隊と社外取締役との間でお互いを尊重し合う関係がないと成り立たない。

そういう観点で言うと、当社の経営陣は私を含めた社外取締役の発言に対して本当に真摯に耳を傾けてくれており、社外取締役としても真剣に向き合わなくてはいけないと身が引き締まる思いで、非常に良好な関係にあると感じている。

課題としては、個人的な見解も含むが、前期は最高の決算である中で売上利益率が3%にも満たないような状況であることだと考えている。業界の事業環境によるやむを得ない部分もあると思うが、この事業分野におけるNo.1リーディングカンパニーとしてこれからさらに成長していくためには、ぜひともここに安住せず、最低限、売上利益率5%を目標に達成に向けて取り組んでほしい。